

●株主の皆様へ●

第59期 報告書

2018年3月1日 ▶ 2019年2月28日

Plenus

証券コード：9945

株式会社プレナス



代表取締役社長 塩井 辰男

● 第59期(2019年2月期)連結業績サマリー

	実績	前期比
売上高	1,539 億円	+5.6%
売上原価	765 億円	+12.9%
売上総利益	774 億円	△ 0.7%
販売費及び一般管理費	779 億円	+6.8%
営業損失	501 百万円	—
経常利益	143 百万円	△ 97.3%
親会社株主に帰属する当期純損失	2,926 百万円	—
当社グループ店舗数	3,403 店舗	+84 店舗
国内	3,161 店舗	+54 店舗
海外	242 店舗	+30 店舗

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、当社グループの第59期(2019年2月期)の業績と主な取り組みについてご報告いたします。

当期の経営概況と業績

当期における外食産業は、原材料価格や物流費の上昇、人手不足に伴う人件費の上昇など、引き続き厳しい事業環境が続きました。

こうした状況の中、当社グループはお客様の満足度向上に努めるべく、商品力、店舗販売力の強化を目指すと共に、中長期での安定的な成長を見据え、更なる事業基盤の強化に注力しました。

また、製造小売チェーンへの転換に向けて、生産体制の強化を図っていく中、9月に宮島醤油フレーバー(株) 広川工場(福岡県八女郡広川町)を稼働、10月にCENTOS食品総合工場(埼玉県北葛飾郡杉戸町)を稼働、11月に威海東源食品有限公司(中国山東省威海市)の株式の50%を取得し、持分法適用関連会社といたしました。これまで以上に競争力のある付加価値の高い商品を供給することで、店舗へのサポートを強化してまいります。

当期の連結業績につきましては、売上高は、既存店売上高が前期実績を上回ったこと、臺灣富禮納思股份有限公司(台湾)などの新規連結や、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、増収となりました。利益面につきましては、主に商品力強化・人材確保・育成への投資、仕入コストの上昇により、減益となりました。また、親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、前述の影響に加え、店舗の固定資産に係る減損損失が増加したことによるものです。

今後の取り組みについて

当社グループは、お客様の満足度向上に努めるべく、商品力と店舗販売力の強化に取り組みながら、FC化の推進や、内製化の推進に取り組んでまいります。

商品力の強化につきましては、当社グループだから提供できる、競合他社が真似出来ない商品を提供することで優位性を構築いたします。「ほっともっと」では、付加価値を高めた商品でプロモーションの展開を行うことで顧客満足度の向上を目指してまいります。「やよい軒」では、「最高の普通を。」をコンセプトにマーケティング施策を実行し顧客満足度の向上を目指してまいります。「MK レストラン」では、タイスキ専門店へのリブランディングによる売上の拡大と店舗収益の向上に努めてまいります。

店舗販売力の強化につきましては、クルーの確保、育成に注力すると共に、クルーの満足度向上を図り、併せて新規厨房機器やシステム投資による店舗オペレーションの改善を実現することにより強化してまいります。

新規出店につきましては、国内は「ほっともっと」61店舗、「やよい軒」30店舗、「MK レストラン」2店舗の合計93店舗を計画しております。また、海外は「やよい軒」を中心に合計48店舗を計画しております。なお、国内の「ほっともっと」及び「やよい軒」につきましては、既存店の収益性向上を最優先課題とし、店舗の個別採算性を重視した出店戦略を推進し、同時にフランチャイズ展開も推進してまいります。

また、製造小売チェーンへの転換による更なる収益性の向上にむけて、食品総合工場や関係会社の工場の安定稼働や稼働率を向上させることで、当社グループとしての利益の最大化を目指してまいります。

海外事業につきましては、マーケットに応じた売上向上施策の実行、食材調達の現地化による店舗原価低減、出店の推進等により、事業の黒字化を目指してまいります。

第60期(2020年2月期)の連結業績予想

通期の連結業績は、売上高1,592億50百万円(前期比3.5%増)、営業利益21億30百万円(前年同期は、営業損失5億1百万円)、経常利益26億40百万円(前年同期は、経常利益1億43百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益2億40百万円(前年同期は、親会社株主に帰属する当期純損失29億26百万円)と予想しております。

配当金について

当社は、継続的かつ安定的な配当を実施することを前提に、明確な基準に基づく配分の実施を基本方針としております。具体的には、年間配当60円または、年間配当性向50%(連結ベースでの1株あたり当期純利益)を達成する金額のいずれか高い額をお支払いすることとしております。

上記方針に基づき、第59期の配当金につきましては、1株当たり60円(内、中間配当金30円)とさせていただきます。なお第60期につきましては、中間配当金1株当たり30円、期末配当金1株当たり30円の年間60円を予定しております。

株主の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



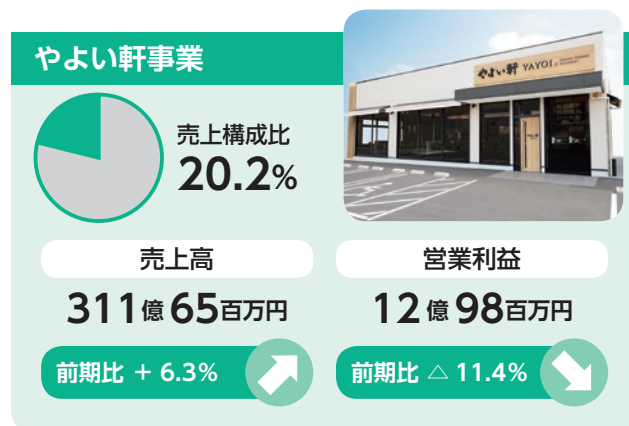
当期の業績について

ブランドスローガン「やっぱり、お弁当屋さんのおべんとうはおいしい。」を策定し、従来のとんかつよりも食べ応えや食感にこだわることで付加価値を高めた『ロースかつシリーズ』を発売するなど定番商品の強化を図り、より価値のある商品の提供と、TVCMを中心とした新ブランドキャンペーンを展開しました。また、お客様満足向上のため、店舗の販売力を強化するべく人材確保・育成を行いました。

当期の業績につきましては、売上高は既存店売上高の増加と、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前期実績を上回りました。営業利益につきましては、商品力強化・人材確保・育成への投資、仕入コストの上昇などにより、前期実績を下回りました。

今後の取り組みについて

付加価値を高めた商品でプロモーションの展開を行うことで顧客満足度の向上を目指してまいります。また、既存店の収益性向上を最優先課題とし、店舗の個別採算性を重視した出店戦略を推進し、同時にフランチャイズ展開も推進してまいります。



当期の業績について

素材や手づくり感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、『カットステーキ定食』の発売を行うなど、ターゲットをより明確にした商品の開発や販売促進活動を展開いたしました。また、2019年1月から新商品のお知らせ、キャンペーン情報、お得なクーポンを配信する「やよい軒公式アプリ」を導入するなど、お客様の来店促進を図りました。

当期の業績につきましては、売上高は既存店売上高の増加と、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前期実績を上回りました。営業利益につきましては、主に仕入コストの上昇により、前期実績を下回りました。

今後の取り組みについて

「最高の普通を。」をコンセプトにマーケティング施策を実行し顧客満足度の向上を目指してまいります。また、既存店の収益性向上を最優先課題とし、店舗の個別採算性を重視した出店戦略を推進し、同時にフランチャイズ展開も推進してまいります。

MKレストラン事業



売上構成比
2.2%

売上高

34億40百万円

前期比 $\triangle 0.2\%$



営業損失

55百万円

前期営業利益
1億33百万円



当期の業績について

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、季節限定のスープや特選具材を取り揃えるなど、商品力の強化に努めました。また、広島県に初進出するなど店舗数は36店舗となりました。

当期の業績につきましては、売上高は主に既存店売上高の減少により、前期実績を下回りました。営業利益につきましても、主に原価率の上昇、人件費の増加により、前期実績を下回りました。

海外事業



売上構成比
2.5%

売上高

38億19百万円

前期比 $+93.6\%$



営業損失

6億78百万円

前期営業損失
5億75百万円



当期の業績について

新たに臺灣富禮納思股份有限公司(台湾)、BayPOS, Inc. (アメリカ)を連結対象としております。

当期の業績につきましては、事業規模拡大を目指して成長基盤の強化に努めると共に、「ほっともっと」4店舗、「やよい軒」31店舗出店するなど引き続き出店を推進し、売上高は前期実績を上回りました。

その他



売上構成比
3.5%

売上高

54億52百万円

前期比 $+0.6\%$



営業損失

1億55百万円

前期営業利益
34百万円



当期の業績について

宮島醤油フレーバー(株)は調味料・加工品のOEMを主な事業としております。また、当社グループ店舗で使用する調味料などの開発も行っております。当期は、顧客への営業活動を積極的に実施しました。

当期の業績につきましては、売上高は前期実績を上回ったものの、営業利益につきましては、主に原価率の上昇、のれん代の償却により、前期実績を下回りました。



こだわりおかず 選べる3つの仕立て
新『幕の内弁当』シリーズ

2018年11月1日発売

「ほっともっと」は、“店内調理による手づくり”を特長とした商品を提供することにより、競合との差別化を図っております。

食べ応えや食感にこだわった『ロースかつシリーズ』など、より価値のある商品を提供しました。



サクサク肉厚、食べごたえアップ
新『ロースかつ』シリーズ

2019年1月7日発売



「ほっともっと」の
オールスタースタンプラリー

2019年2月1日～3月3日



YAYOI
JAPANESE TEISHOKU RESTAURANT

新さんま入荷しました
『さんまの塩焼定食』

2018年9月20日発売

「やよい軒」は、日本人の主食である炊きたてのご飯を中心に、素材や手づくり感にこだわりながら、みそ汁、おかず、副菜等を一つのお膳にバランスよくまとめた『定食』を、お手頃価格で提供しております。

『カットステーキ定食』など、ターゲットをより明確にした商品を提供しました。



冬の定番、一人前の鍋
『やよい軒』の鍋定食

2018年11月1日発売



肉の旨味を存分に
『3種のカットステーキ定食』

2018年12月4日発売





CENTOS 食品総合工場

食品工場拠点 CENTOS 内に建設しておりました新食品総合工場が 2018 年 10 月に完成し、本格稼働を始めました。新食品総合工場は当社グループ最大の食品工場で、最新かつ効率的な生産システムを導入しており、今後、幅広い基幹商品の内製化を進め、これまで以上に競争力の高い商品の供給を行ってまいります。この新工場は既存の工場と同様、物流センターに隣接しておりますので、サプライチェーン（調達・製造・物流・販売）の更なる効率化を図ることが可能となります。

当社グループは、製造小売チェーンへの転換を実現することを大きな戦略として推進しており、当社グループだから提供できる、競合他社が真似出来ない付加価値の高い商品を店舗に供給し、お客様に満足していただける魅力的な商品を提供することで店舗の競争力を高め、店

舗収益を改善し、更なる生産性の向上も図ってまいります。それにより新規出店を加速させると共にフランチャイズ展開を推進し、チェーンの規模拡大を図ってまいります。

引き続き、CENTOS 食品総合工場や、9月から稼働を始めた宮島醤油フレーバー（株）広川工場、11月に株式を取得し持分法適用関連会社となった威海東源食品有限公司など関係会社の工場を活用し、製造アイテムを拡大し、生産性を向上させることで当社グループとしての利益の最大化を目指してまいります。

工場の概要	所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町
	延床面積	8,500m ²
	生産品目	スライス製品、とんかつ、チキン南蛮など
	生産能力	30,000トン／年
	投資額	約 80 億円

宮島醤油フレーバー(株)広川工場



工場の概要

所在地	福岡県八女郡広川町
延床面積	1,650m ²
生産品目	店舗向け調味料(しょうが焼きのたれなど)
生産能力	8,900 トン/年
投資額	約 12 億円

宮島醤油フレーバー(株)は、調味料に関する豊富な原料情報と優れた開発技術を有しており、新たに2018年9月から福岡県八女郡広川町にある宮島醤油フレーバー(株)広川工場の稼働を開始しました。

広川工場では、主に「ほっともつ」の『しょうが焼き弁当』で使用している「しょうが焼きのたれ」など店舗向け調味料を製造しており、今後は小袋などのアイテム数を拡大し、完成度の高い商品をより短時間で開発・製造できる体制を整えてまいります。



威海東源食品有限公司



工場の概要

所在地	中国山東省威海市
延床面積	8,000m ²
生産品目	白身フライなど
生産能力	10,000 トン/年
投資額	約 7 億円

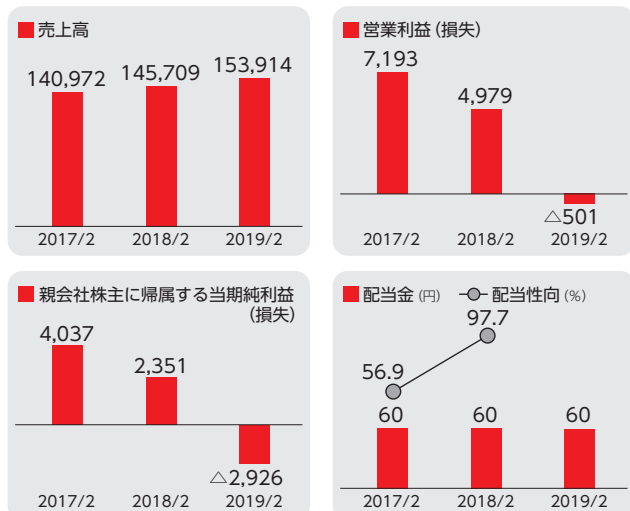
2018年11月に中国山東省威海市にある水産加工会社の威海東源食品有限公司の株式の50%を取得し、持分法適用関連会社といたしました。

この工場では、主に「ほっともつ」の『のり弁当』などで使用している「白身フライ」を製造しております。今後は生産品目数を増やしていくことにより内製化の幅を広げ、より付加価値の高い商品の供給を行ってまいります。



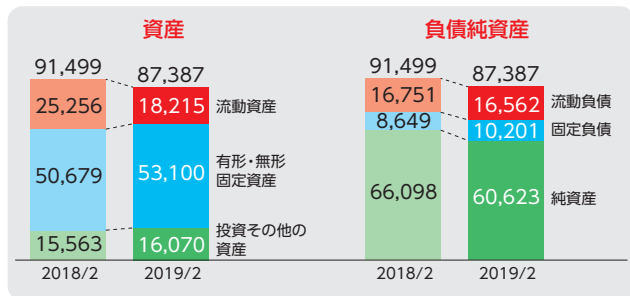
連結財務データ

連結業績の推移 (百万円)

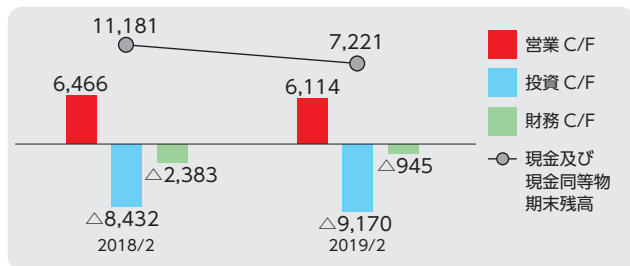


※2019/2の連結ベースでの配当性向は1株あたりの当期純利益がマイナスであるため記載しておりません。

連結貸借対照表の概要 (百万円)



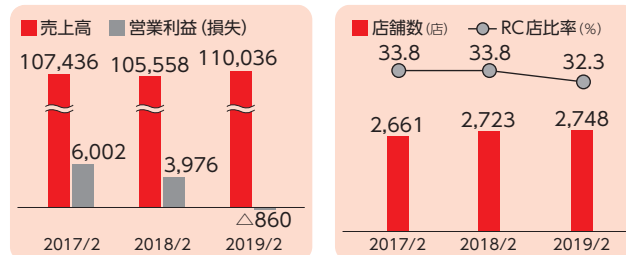
連結キャッシュ・フローの推移 (百万円)



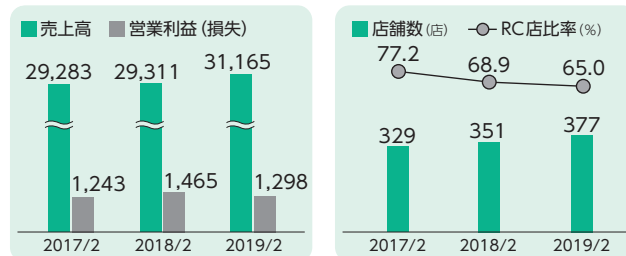
セグメント別業績データ

セグメント業績の推移 (百万円)

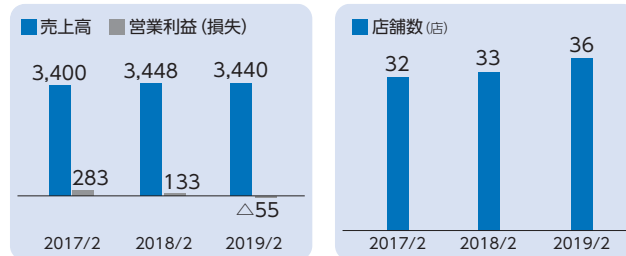
ほっともっと事業



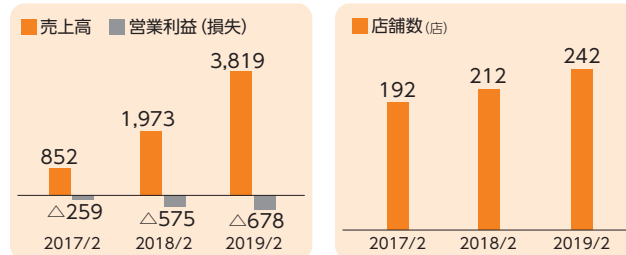
やよい軒事業



MKレストラン事業



海外事業



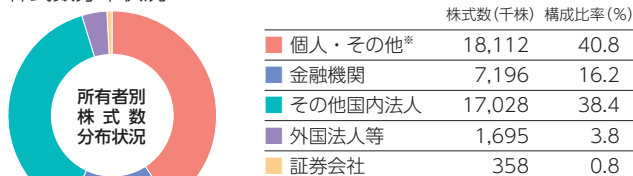
会社概要 (2019年2月28日現在)

商号 株式会社プレナス (英文名 PLENUS Co., Ltd.)
 創業 1960年3月
 設立 1976年11月
 資本金 34億61百万円
 福岡本社 福岡県福岡市博多区上牟田一丁目19番21号
 東京本社 東京都中央区日本橋茅場町一丁目7番1号
 従業員数 1,282名
 上記従業員のほか、パートタイマーの期中平均雇用人員は6,456名(1日8時間換算)であります。

株式の状況 (2019年2月28日現在)

発行可能株式総数 92,568千株
 発行済株式の総数 44,392千株
 株主総数 66,785名

株式数分布状況



※個人・その他には、自己名義株6,103千株(13.7%)を含んでおります。

グループ会社 (2019年2月28日現在)

- 【国内】(子会社) (株) プレナス・エムケイ
 (株) プレナスフーズ
 (株) プレナスワークサービス*
 宮島醤油フレーバー(株)
 (株) フーディフレーバー
 (関連会社) (株) 九州トヨー
- 【海外】(子会社) 北京好麦道餐飲管理有限公司(中国)
 PLENUS AusT PTY. LTD.(オーストラリア)
 臺灣富禮納思股份有限公司(台湾)
 Plenus, Inc.(米国)
 Plenus Global Pte. Ltd.(シンガポール)
 BayPOS, Inc.(米国)
 (関連会社) PLENUS & MK PTE. LTD.(シンガポール)
 YK Food Service Co., Ltd.(韓国)*
 PLENUS & MK MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア)*
 威海東源食品有限公司(中国)

※連結の範囲に含めない関係会社

株主優待制度について

(1) 対象となる株主様

毎年2月末日の株主名簿に記載、または記録された100株(1単元)以上を1年以上継続保有*されている株主様を対象といたします。

*1年以上継続保有とは、「当年2月末日現在の株主名簿に記載、または記録され、かつ同じ株主番号で前年の2月末日、8月末日に記載、または記録されていること」といたします。

(2) 優待の内容

毎年2月末日の対象株主様に、当社グループ国内店舗で使用可能な株主様限定の「株主お買物優待券」を贈呈いたします。(年1回)

保有株式数	優待内容
100株以上 1,000株未満	500円「株主お買物優待券」5枚
1,000株以上	500円「株主お買物優待券」10枚

(3) 贈呈の時期

5月下旬にご送付いたします。



株主お買物優待券見本

当社の株主優待制度は、「ほっともっと」「やよい軒」「MK レストラン」で「株主お買物優待券」をご利用いただける制度です。

当社グループ店舗をご利用いただき、当社グループの商品・サービスに対するご理解を深めていただければ幸いです。

株主メモ

決算期	2月末日
定時株主総会	毎年5月
株主確定日	
定時株主総会	2月末日
期末配当	2月末日
中間配当	8月31日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 (当社ホームページに掲載。) 但し、事故 その他やむを得ない事由によって電子公告 による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先及び 電話お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 ☎0120-288-324

株式事務手続きについて

株式事務に関する各種手続き(住所変更、配当金の振込先指定、単元未満株式の買取・買増請求等)のお問合せ先は、次のとおりとなっております。

■証券会社等の口座に記録された株式に関するお問合せ先

お取引のある証券会社等へお問合せください。

■特別口座に記録された株式に関するお問合せ先

みずほ信託銀行株式会社(特別口座管理機関)へお問合せください。

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 ☎0120-288-324

※未払い配当金について

未払い配当金につきましては、上記いずれの場合も当社株主名簿管理人のみずほ信託銀行株式会社へお問合せください。

お問合せ先

株式会社プレナス 会計本部 IR室

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町一丁目7番1号 日本橋弥生ビルディング

TEL.03-6892-0304

ホームページアドレス <https://www.plenus.co.jp/>